

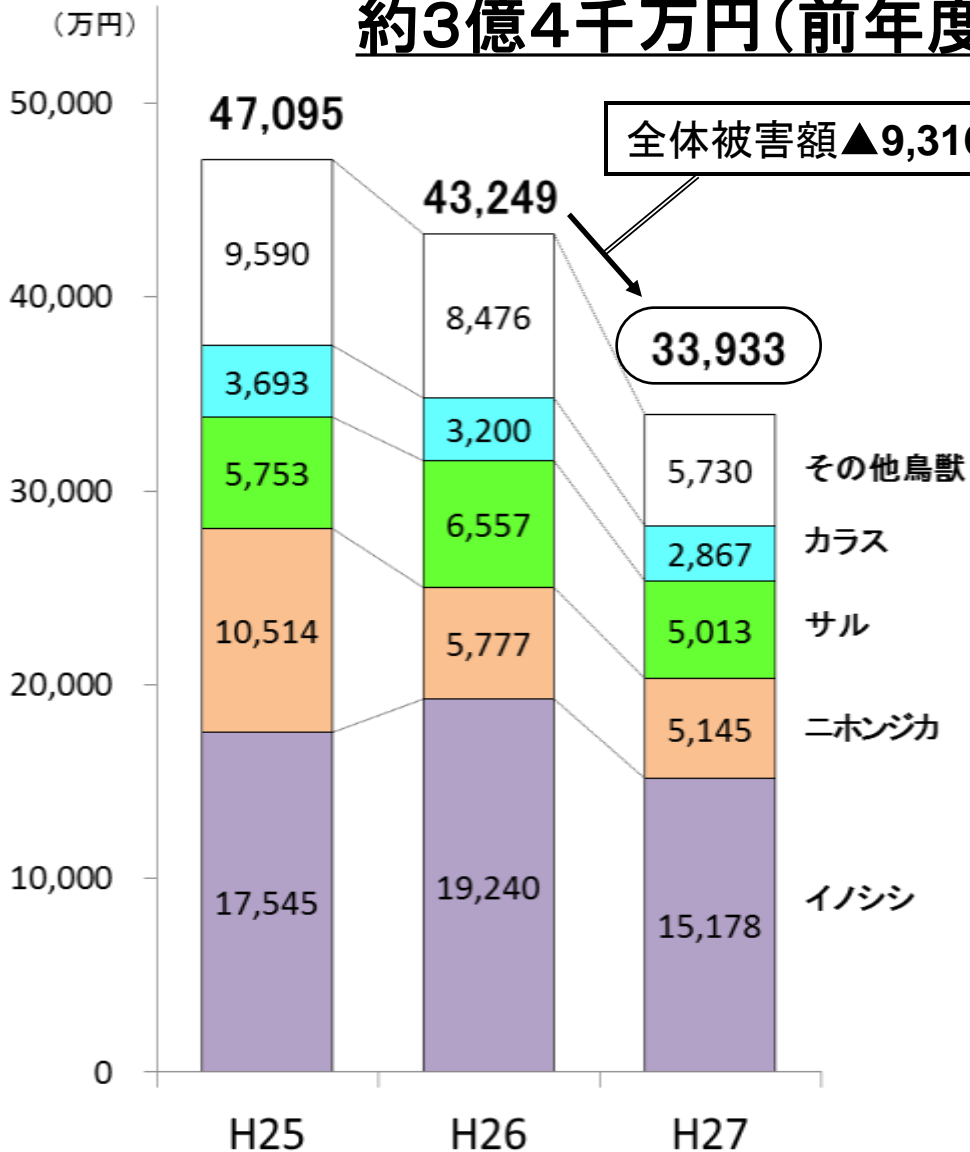
第12回 岐阜県鳥獣被害対策本部員会議



平成27年度鳥獣被害の現状について

(1) 平成27年度 農作物被害額(暫定)

約3億4千万円(前年度比 22%減少)



全体被害額▲9,316万円 (うちイノシシ・シカ・サル計▲6,238万円)

- ・被害市町村 39市町村(前年と同じ)
- ・前年から被害が減少した市町村
27市町 (H26 19市町村)

＜主要3獣種の被害額＞ (万円)

獣種	H26	H27	前年比
イノシシ	19,240	15,178	79%
ニホンジカ	5,777	5,145	89%
サル	6,557	5,013	76%
計	31,574	25,336	80%

・野生鳥獣による農作物被害調査結果(H28.5)

(2) 要因分析

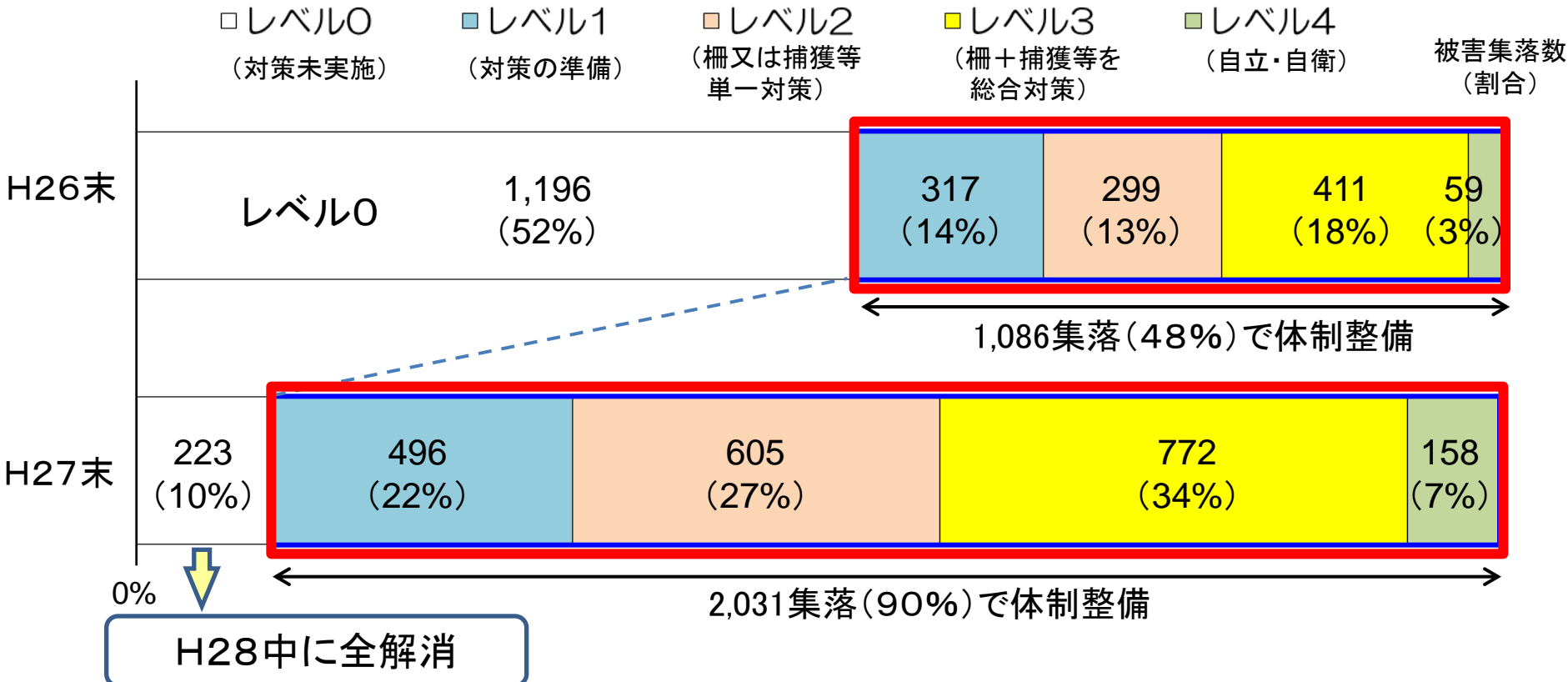
① H27に各農林事務所に鳥獣被害対策専門指導員を設置し、集落に対する研修会の開催、防護柵の設置指導等を集中的に実施。

→対策が行える体制の整った集落数が大幅に増加

〔 H26:48% → H27:90%
うち防護柵 H26:34%→H27:68% 〕

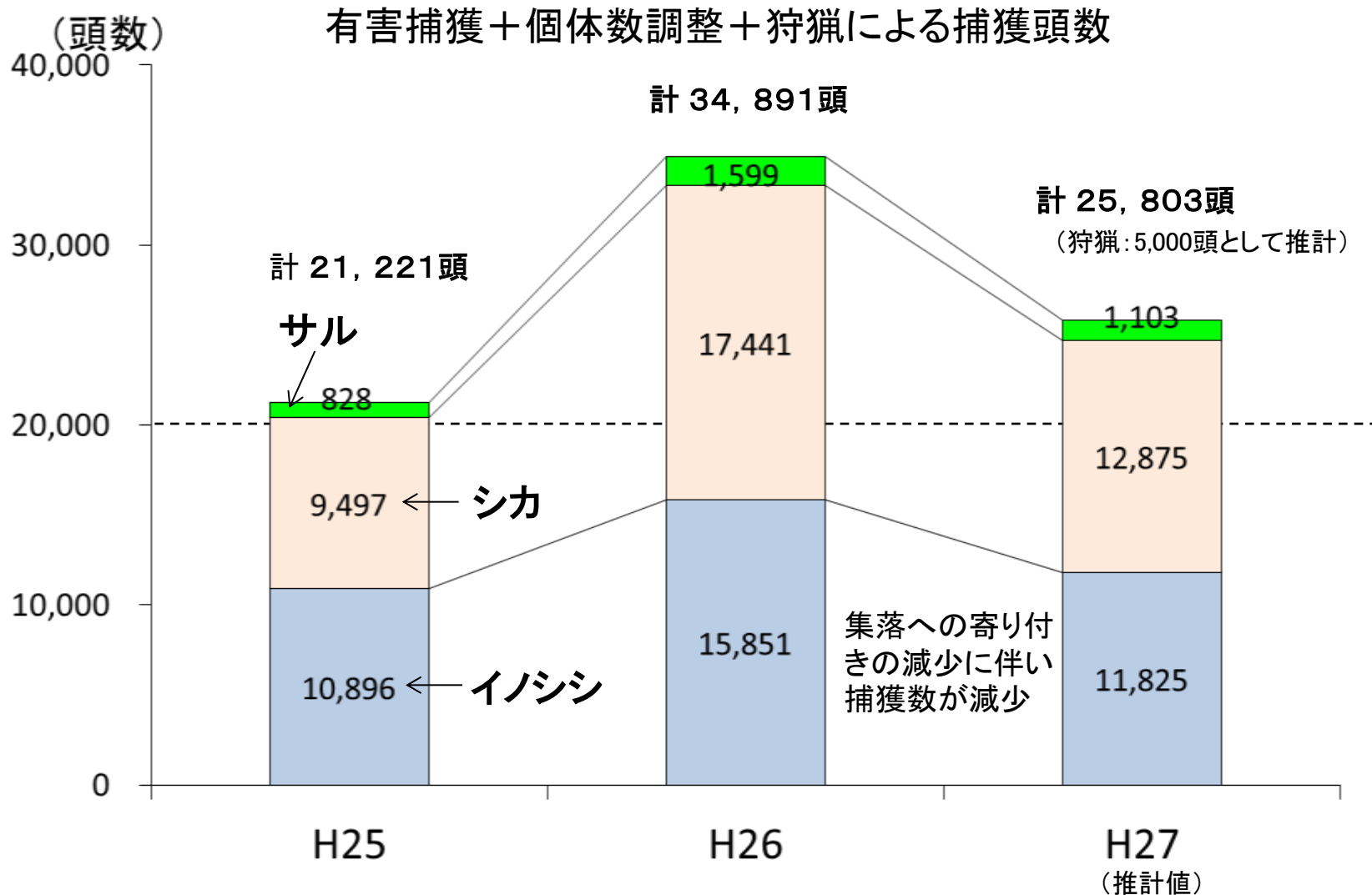


◇被害があった集落数と対策レベルの推移



②H26にイノシシ、シカ、サルの捕獲頭数が大きく増加(H25比 164%)
したことにより加害獣が減少し、H27の集落への寄り付きが減少。

◇イノシシ、シカ、サルの捕獲実績

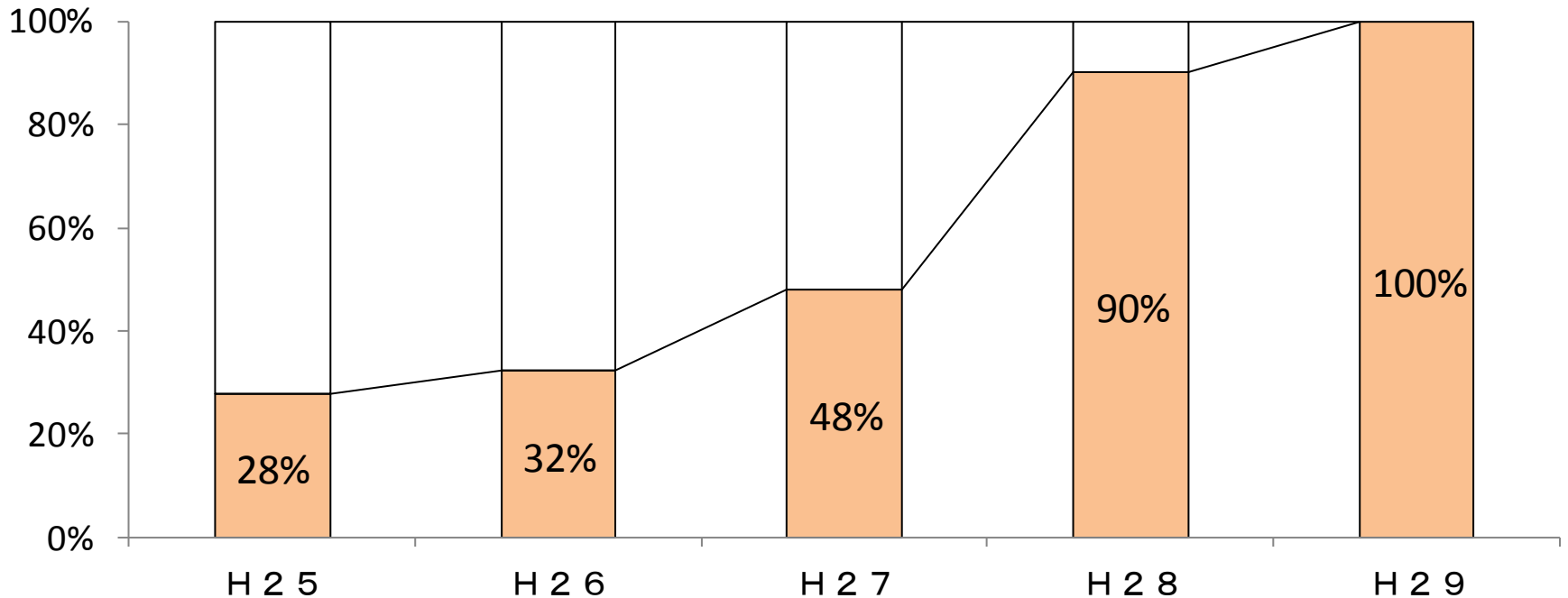


平成28年度の重点施策について

(1) 防護柵整備の加速化

H28～29の2年間に、体制の整った集落における防護柵の整備を一気に促進。

◇対策が行える体制のある集落数(レベル3以上)の割合



371百万円
(防護柵の整備に係る市町村要望額)

<2年間で防護柵の整備を集中的に促進>

(2)ニホンザル被害対策指針(市町村・地域向け実施マニュアル)に基づく取り組み

1. 背景

- ・県内鳥獣害のうち、イノシシに次いで農産物の被害が多い(平成26年度)。
- ・人馴れしたサルが家屋周辺に出没し、生活被害が生じている。



こういった背景から、昨年、被害が発生した24市町村のサルを中心に、群れの規模、加害レベル等を調査し、本年3月に市町村・地域向けの対策マニュアルを作成。

2. 結果概要

- 被害集落へ出没する群れを把握し、加害レベルを明らかにした。

- ・群数・・・178群
- ・サルの生息頭数・・・4,000～5,500頭
- ・生息地域・・・県中央部(関市、郡上市など)を中心に生息。

- 被害対策

- ・群れの加害レベルを増加させないための適切な防除と追い払いを基本とする。
- ・加害レベルの高い群れに対しては、捕獲を実施。

3. 今後の対応

- 市町村への周知と支援を実施

- ・各市町村に紹介(5月に説明会を実施)。
- ・住民への防護対策の推進、加害レベルの高い群れの捕獲を支援。



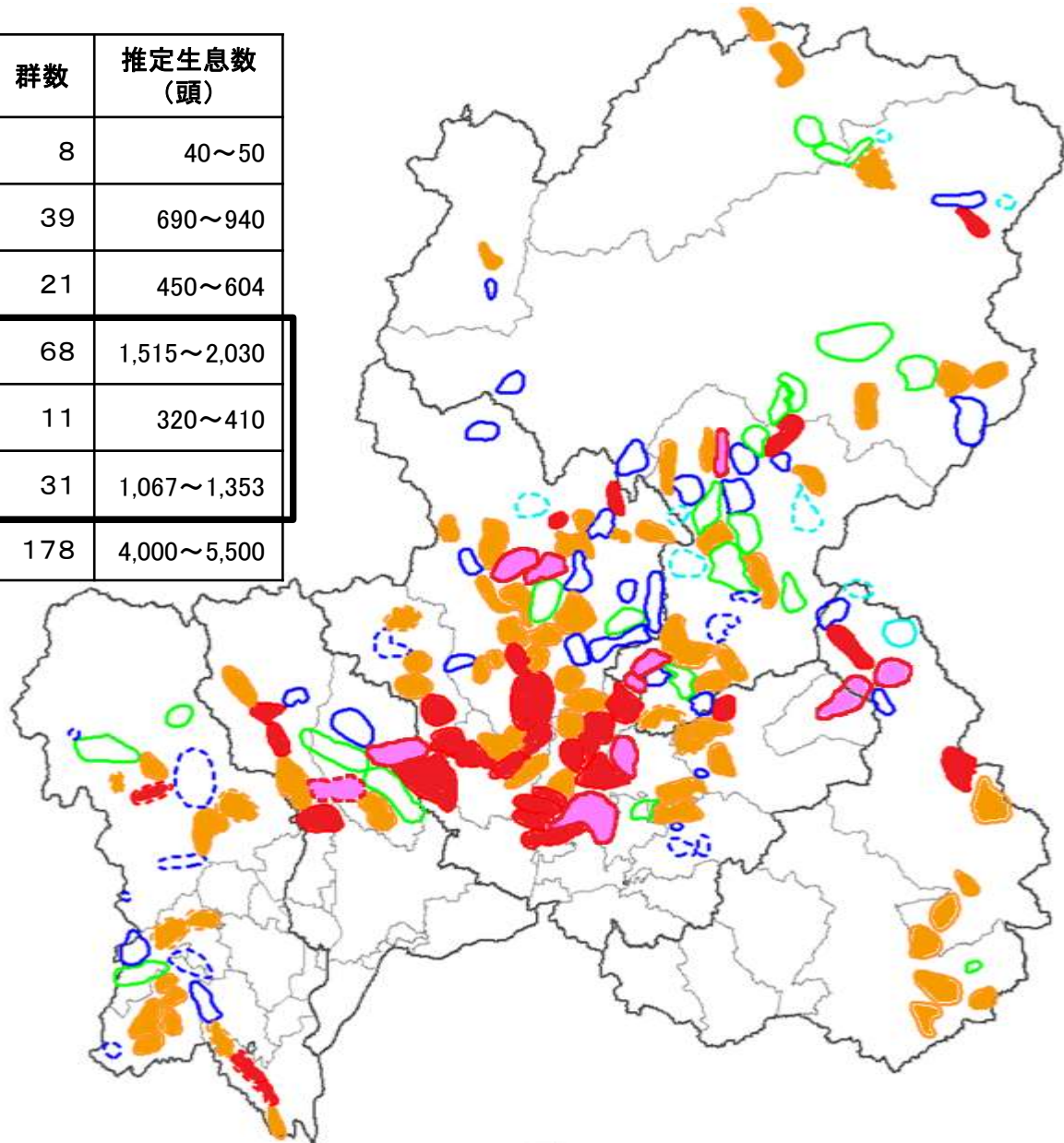
地域における被害対策の強化を実施
追い払い、捕獲等による被害の軽減につなげる

被害集落におけるニホンザルの群れの分布・加害レベルの状況

◇加害レベルと加害群数

	加害レベル	群れの行動・被害程度	群数	推定生息数(頭)
	0	出没はまれ、被害なし	8	40~50
	1	たまに出没、被害は軽微	39	690~940
	2	時々被害が発生	21	450~604
	3	群れの大半が農作物被害を発生	68	1,515~2,030
	4	群れ全体が、常時農作物被害を発生	11	320~410
	5	群れ全体が、通年で大きい被害を発生	31	1,067~1,353
		計	178	4,000~5,500

↓
対策が必要な群れ



データが不十分な群れ推定行動圏

サルの群れを効率的に捕獲するシステムの普及

サルの加害レベルが高く(レベル3以上)、捕獲への取組意欲の高い地域において、県開発囲いワナ等の普及を図る。

<平成27年度 県開発囲いワナの効果実証>

○実施場所 : 郡上市和良町

○捕獲頭数 : 5頭/基

<平成28年度 of 取組>

○わな導入市町村 : 5市町(関市、郡上市、揖斐川町、中津川市、恵那市)

○目標捕獲頭数 : 計200頭/5市町



しつらくえん
県開発囲いワナ(通称:失楽猿)



エサで誘引し、群れごと捕獲

(3)カワウ被害対策指針に基づく取り組み

被害の現状や最新の知見を踏まえ、市町村、漁協向けの対策マニュアルとして策定(平成28年3月)

【目標】 平成35年までに被害を与えるカワウの個体数(H26:約1,300羽)を半減

計画

対策の実施計画の策定

- ① 各コロニー・ねぐらごとに達成目標の設定、対策の役割を分担
- ② 漁業協同組合間の情報共有体制を整備
- ③ 対策を効果的に実施するため、最適な場所、時期、方法を選定

実施

分布域抑制

- ・内陸地のコロニー解消
- ① 追い払い
- ② 営巣妨害(ひも張り)
- * 追い払いにより銃が使えるコロニーへ誘導→捕獲



捕獲の推進

- ・大規模コロニーでの効率的捕獲(繁殖抑制)
- ・飛来地、ねぐらでのカワウ捕獲(被害を与えるカワウの駆除)



連携

検証

効果検証

- ① 分布及び生息数の調査
- ② 各対策内容の取りまとめ

次年度の実施計画へ反映

カワウの被害対策の概要

◇カワウ供給源である大規模コロニー対策

シャープシューティングによる効率的な捕獲を実施

実施場所：船附コロニー・岩屋ダムコロニー



遠方から狙撃し、カワウを湖面に落とす



捕獲個体を回収し、体重・年齢・性別、胃内容物を調査

◇ねぐら・飛来地における対策

漁業協同組合が中心となり追い払い・捕獲を実施

県・県漁連・各漁業組合が情報共有しつつ、追い払いと組み合わせた効率的な捕獲を実施

湖畔林へのビニールひも張り(追い払い)→



(4)ジビエの振興施策

①ぎふジビエ登録制度の推進状況

ぎふジビエ衛生ガイドラインに沿い処理された野生獣の肉であることを明らかにして、「ぎふジビエ」の利活用拡大に繋げるためぎふジビエ登録制度を平成27年11月17日に創設。

		初回登録 (H28.1)	H27年度末 (H28.3)	H28計画
解体処理業者		7業者	11事業者	15事業者
	処理頭数	450頭	500頭	1,000頭
取扱い店舗数		32店舗	35店舗	70店舗
	県内	23店舗	26店舗	40店舗
	愛知県	8店舗	8店舗	15店舗
	東京都	1店舗	1店舗	15店舗
	売上金額	約1,300万円	約1,700万円	約3,500万円

②登録事業者拡大に向けたH28の取組

◇解体処理業者の育成

- ・「解体技術講習会」の開催(岐阜、飛騨地域各1回)
- ・獣肉処理流通モデル事業(県単)により施設整備を支援(2団体)
- ・サテライト処理施設の開発(~10月)



解体技術講習会



サテライト処理施設(イメージ)

◇取扱い店舗の拡大

- ・解体処理業者と飲食店等の商談会開催(6、7月)
- ・地域における流通体制の整備(モデル3地区)
- ・調理師向け「料理講習会」の開催(岐阜、飛騨地域各1回)
- ・レストラン等における「ぎふジビエフェア」の開催(70店舗で開催予定)



ジビエ商品の商談

試食いただくぎふジビエ商品

◎ぎふジビエを使ったギョーザ(市販品)

《開発商品の特徴》

- ①商品名 「ぎふジビエ餃子」
- ②素 材 シカ肉、揖斐川町春日の薬草、県産キャベツ など
- ③価 格 400円／5個入
- ④開発者 岐阜餃子共和国(本巣市)
しんたいめんぼー
- ⑤販売先 ・清太麺房(本巣市;モレラ岐阜前)
・飛騨高山餃子総本山(高山市;屋台村「でこなる横丁」内)
※両店とも、店内飲食、テイクアウト、イベント販売に対応



ぎふジビエ餃子



清太麺房店舗



飛騨高山餃子総本山店舗

◎ぎふジビエを使った加工品(市販品)

《開発商品の特徴》

①商品名:「シャルキュトリー ジビエ盛り合わせ」

②素 材: シカ肉

③価 格: 1, 280円/4品盛り

- ・鹿ミンチ肉100%のソーセージ
- ・鹿モモ肉の桜チップを使った燻製ハム
- ・鹿肩肉のパテ(鹿肉をムース状に練り上げたもの)
- ・鹿レバーペーストのバケット添え(鹿レバー裏ごしし調味したもの)

④開発者・販売先: シャルキュトリー レストラン 里山きさら(揖斐川町谷汲)



シャルキュトリージビエ盛り合わせ



シャルキュトリーレストラン里山きさら店舗
(H28.5.20 OPEN)

第12回 岐阜県鳥獣被害対策本部員会議

